



1 東海創玄書道会 50周年記念を迎えて

と き:平成 27 年 9 月 29 日(火) ~
10 月 4 日(日)

と ころ:電気文化会館

此度、東海創玄書道会が50周年を迎えました。

東海創玄書道会の母体である創玄書道会は、昭和24年9月、戦後の厳しい状況の中、金子鷗亭先生 大平山濤先生 金子聴松先生 渡辺緑邦先生方7名の先生が発起人となり、全国に散在した同士48名によって結成された随鷗社を経て、昭和39年3月27日に創立しました。

その翌年の昭和40年1月3日、石黒臥龍先生 川口錦汀(霽亭)先生 加藤大碩先生 野崎幽谷先生 黒田玄夏先生方をはじめとする東海地区在住の同士が集まり、その後、数回の準備委員会(会の組織・事業計画案)を経て、昭和41年1月23日、東海創玄書道会は、柳橋ガーデンビル5階ホールにて発足しました。当時の会員数46名、役員19名でのスタートでした。そして現在は、日頃からお世話になっている先生方・協賛会員の皆様のお力添えを頂きながら、総会員数386名、役員86名にまで大きく育ってきました。

一言に50年といえども、それは茨の道。東海創玄書道会は、石黒臥龍先生 加藤大碩先生 野崎幽谷先生 黒田玄夏先生 長谷川牧風先生 加藤 裕先生方、歴代の代表を中心に、初代代表の教えである「和をもって貴し」をモットーに、諸先生方が一丸となって助け合い、協力し合い、励まし合い、時には闘いながら一步一步前進して来ました。

そして私達は、金子鷗亭先生の「自然を自然のままに表現しては 魅力ある芸術は生まれない。むしろ不自然な条件を克服して、これをいかに自然に見せるか・・・というところに高い芸術性が生まれ、真の創作活動となる。そして自分の目で、自分の心で、古典の原帖に接し、その感興を源に臨書をすることによって得た栄養を吸収し、体内で攪拌し、貯蔵して、美的表現を求める感動に触発され、全く形を変えて 具現化するのが理想の姿だ。」また、「人の後を追うのはよそう。自己を見つめ、自己を発見し、独自の道を歩もう。芸術においては師匠を否定しよう。この悲願を打ち立てて、自己の確立に努めよう。類型はいやだ。」・・・という教えを基に日々書を勉強させて頂いております。改めて鷗亭先生の偉大さ、創玄書道会に在籍させて頂いている有難さを痛感する次第であります。

今後も、東海創玄書道会は、打てば響き、切れれば鮮血が飛び散るような現代の書を目指し、普及・発展を謀り、新人の発掘・育成に努め、少しでも中部から全国に発信出来るよう切磋琢磨・精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、50周年を迎えるにあたって、9月29日(火)～10月4日(日)電気文化会館5階東西ギャラリー(名古屋 伏見)にて記念展を、10月3日(土)名古屋観光ホテルにて祝賀会を無事、盛会とする事が出来たのも、ご多用の中、ご高覧・ご臨席を賜った諸先生方・皆様、そして、各会場造りから携わって頂いた協賛会員・スタッフ方々のご協力のお陰と会員一同、心より感謝申し上げます。

今後も東海創玄書道会を見守って下さいますようお願い申し上げます。

(文:川合 玄鳳)

下記リンクに東海創玄展の写真がありますので、併せてご覧ください。

50周年記念東海創玄展 (準備)

<https://www.flickr.com/gp/127513068@N08/1Y33ME>

50周年記念東海創玄展 (会場風景)

<https://www.flickr.com/gp/127513068@N08/e91ted>

50周年記念東海創玄展 (主な作品)

<https://www.flickr.com/gp/127513068@N08/S0Z2oC>

50周年記念東海創玄展 (祝賀会)

<https://www.flickr.com/gp/127513068@N08/Y2214b>